【禁無断転載】

解答は，すべて解答用紙に記入して必ず提出してください。

簿記能力検定試験(見本)
問題用紙

２ 級　工業簿記

（平成29年Ｘ月ＸＸ日施行）

注　　意

・試験開始の合図があるまで，問題用紙は開かないでください。
・この試験の制限時間は１時間30分です。
・解答は，問題の指示にしたがい，すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
・解答用紙の会場コードは，試験監督委員が指示した６桁の数字を頭の０(ゼロ)を含めてすべて書いてください。
　受験番号は右寄せで書いてください。左の空白欄への０(ゼロ)記入は不要。
　受験番号１番の場合，右寄せで１とだけ書いてください。
　受験番号９０００１番の場合，右寄せで９０００１とだけ書いてください。
　受験番号を記入していない場合や，氏名を記入した場合には，採点の対象とならない場合があります。
・印刷の汚れや乱丁，筆記用具の不具合などで必要のある場合は，手をあげて試験監督委員に合図をしてください。
・下敷きは，机の不良などで特に許されたもの以外は使用してはいけません。
・計算用具(そろばん・計算機能のみの電卓など)を使用してもかまいません。
・解答用紙は，持ち帰りできませんので白紙の場合でも必ず提出してください。
　解答用紙を持ち帰った場合は失格となり，以後の受験をお断りする場合があります。
・**簿記上本来赤で記入する箇所も黒で記入すること。**
・**金額には３位ごとのカンマ「,」を記入すること。**
　ただし，位取りのけい線のある解答用紙にはカンマを記入しないこと。

主　催　公益社団法人　全国経理教育協会

後　援　文　部　科　学　省
　　日　本　簿　記　学　会

簿記能力検定試験問題（見本）

２級　工業簿記

解答は解答用紙に

第１問　以下は，全経製パン株式会社におけるパン作りにかかわる費用の一部である。これらを直接材料費，直接労務費，間接材料費，間接労務費，間接経費のいずれかに分類しなさい。（20点）

１．製パン用オーブンの減価償却費
２．製造途中のパン粉を入れておくボウルなど少額の調理器具購入額
３．事務員の給料
４．小麦粉など素材の消費額（減耗分を除く）
５．パン作り工員への調理時間分の賃金

第２問　以下は，家具の受注生産を行っている全経工務店における一連の製造活動の一部である。これらを次の中から最も正しいと思われる勘定科目を用いて仕訳しなさい。（24点）

仕掛品	賃金	買掛金	水道光熱費
売上原価	材料	売上	製品
発送費	売掛金	現金	製造間接費

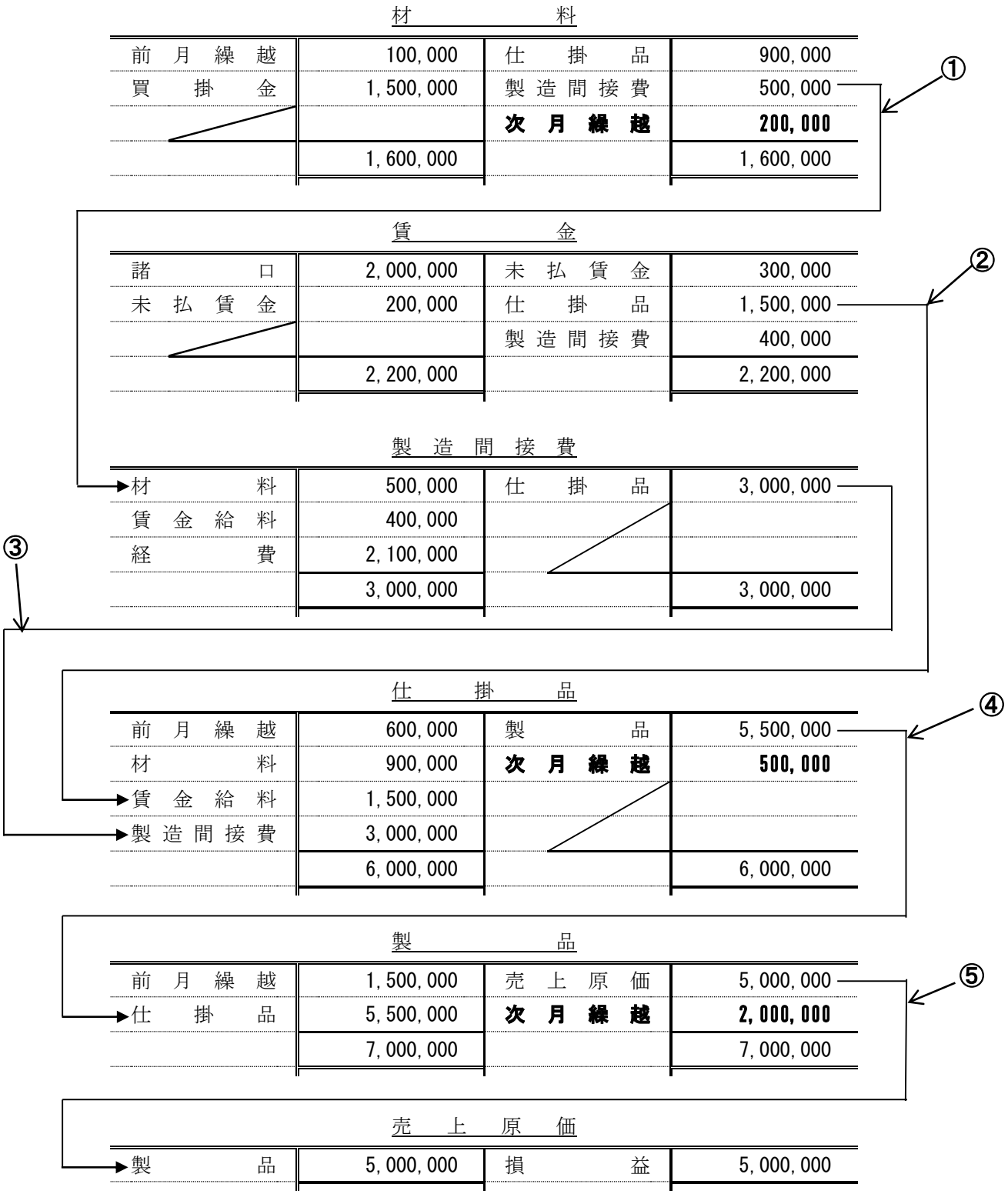
１．家具製造用の木材100,000円を掛けで購入した。なお，運送代10,000円は現金で支払った。
２．顧客Ａからタンス200,000円の注文を受け，木材40,000円を使用したため，その分を仕掛品勘定へ振り替えた。
３．作業員の賃金のうち，顧客Ａから注文を受けたタンスを作るための分は90,000円であったため，その分を仕掛品勘定へ振り替えた。
４．水道光熱費などの製造間接費のうち，顧客Ａから注文を受けたタンスを製造するための分は30,000円であったため，その分を仕掛品勘定へ振り替えた。
５．顧客Ａから注文を受けたタンスが完成したため，計160,000円の製造費用を製品勘定へ振り替えた。
６．顧客Ａに完成したタンスを予定通りの価格で現金にて販売した。これと同時に製品原価を売上原価勘定へ振り替えた。

第３問　以下は，１種類の製品だけを見込生産している全経製作所株式会社における８月中の＜生産データ＞と＜原価データ＞である。これらのデータを参照して平均法によって計算した場合，解答用紙の空欄に入る金額を答えなさい。なお，材料は始点で全量投入される。（16点）

＜生産データ＞
月初仕掛品：500kg（仕上がり程度：50％）
当月投入量：4,500kg
当月完成品：4,000kg
月末仕掛品：1,000kg（仕上がり程度50％）

＜原価データ＞
月初仕掛品原価
直接材料費：50,000円
加工費：50,000円
当月製造費用
直接材料費：450,000円
加工費：850,000円

第４問　以下は，全経工業株式会社における当月の製造に関わる勘定の一部である（単位：円）。このうち①～⑤の矢印は，ア．完成した製品の原価，イ．製造間接費の配賦額，ウ．販売した製品の原価，エ．間接材料費，オ．直接労務費のいずれに当てはまるかア～オの記号で答えなさい。(20点)



材　料

前月繰越	100,000	仕掛品	900,000
買掛金	1,500,000	製造間接費	500,000
		次月繰越	**200,000**
	1,600,000		1,600,000

賃　金

諸口	2,000,000	未払賃金	300,000
未払賃金	200,000	仕掛品	1,500,000
		製造間接費	400,000
	2,200,000		2,200,000

製造間接費

材料	500,000	仕掛品	3,000,000
賃金給料	400,000		
経費	2,100,000		
	3,000,000		3,000,000

仕　掛　品

前月繰越	600,000	製品	5,500,000
材料	900,000	**次月繰越**	**500,000**
賃金給料	1,500,000		
製造間接費	3,000,000		
	6,000,000		6,000,000

製　品

前月繰越	1,500,000	売上原価	5,000,000
仕掛品	5,500,000	**次月繰越**	**2,000,000**
	7,000,000		7,000,000

売上原価

製品	5,000,000	損益	5,000,000

第５問　以下は，全経印刷株式会社における8月中の取引である。これらを参照して，解答用紙の原価計算表を完成させなさい。（20点）

１．同社は個別原価計算制度を採用し，顧客の注文に応じてチラシやパンフレットを印刷し，完成後，直ちに顧客に引き渡している。

２．8月は製造指図書番号301～303の製造に従事し，受注日と引渡日は以下の通りである。

製造指図書番号	受注日	引渡日
301	7/25	8/8
302	8/9	8/23
303	8/22	9/5（予定）

３．8月の材料元帳は以下の通りである。

材　料　元　帳

日付		摘要	受　入			払　出			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
8	1	前月繰越	10	100	1,000				10	100	1,000
	10	仕入	300	90	27,000				310 { 10	100	
									300	90	28,000
	11	出庫(#302)				300 { 10	100				
						290	90	27,100	10	90	900
	23	仕入	200	105	21,000				210 { 10	90	
									200	105	21,900
	24	出庫(#303)				200 { 10	90				
						190	105	20,850	10	105	1,050
	31	**次月繰越**				10	105	1,050			
			510		49,000	510		49,000			
9	1	前月繰越	10	105	1,050				10	105	1,050

４．8月の製造指図書番号別直接作業時間は以下の通りである。

製造指図書番号301：60時間
製造指図書番号302：150時間
製造指図書番号303：90時間

５．製造間接費は直接作業時間を基準に製造指図書番号別に配賦している。

※氏名は記入しないこと。

全２ページ ①

【禁無断転載】

会場コード
受験番号

簿記能力検定試験（見本）

2級 工業簿記 解答用紙

得　点
点

制限時間
【1時間30分】

第１問採点

第１問（20点）

1		2		3	
4		5			

第２問採点

第２問（24点）

	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
1				
2				
3				
4				
5				
6	売　上　原　価		製　　品	

第３問採点

第３問（16点）

直接材料費

月初仕掛品	500kg	50,000円	当月完成品	4,000kg	（　　）円
当月投入	4,500kg	450,000円	月末仕掛品	1,000kg	（　　）円

加　工　費

月初仕掛品	250kg	50,000円	当月完成品	4,000kg	（　　）円
当月投入	4,250kg	850,000円	月末仕掛品	500kg	（　　）円

第４問採点

第４問（20点）

①		②		③	
④		⑤			

第５問採点

第５問（20点）

原　価　計　算　表

（単位：円）

摘要＼指図書＃	＃301	＃302	＃303	合　計
月初仕掛品原価	252,050	―――	―――	252,050
直接材料費	―――	（　　）	（　　）	47,950
直接労務費	（　　）	（　　）	（　　）	900,000
製造間接費	（　　）	（　　）	（　　）	1,200,000
合　計	（　　）	（　　）	（　　）	2,400,000
備　考	完　成	完　成	仕掛中	

※氏名は記入しないこと。

会場コード
受験番号

【禁無断転載】

得　点
点

簿記能力検定試験(見本)

2級 工業簿記 解答

制限時間
【1時間30分】

第１問（20点）

@4点×5＝20点

1	間接経費	2	間接材料費	3	間接労務費
4	直接材料費	5	直接労務費		

第２問（24点）

@4点×6＝24点

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材料	110,000	買掛金 現金	100,000 10,000
2	仕掛品	40,000	材料	40,000
3	仕掛品	90,000	賃金	90,000
4	仕掛品	30,000	製造間接費	30,000
5	製品	160,000	仕掛品	160,000
6	現金 売上原価	200,000 160,000	売上 製品	200,000 160,000

第３問（16点）

●印@4点×4＝16点

直接材料費

月初仕掛品	500kg	50,000円	当月完成品	4,000kg	（ ● 400,000）円
当月投入	4,500kg	450,000円	月末仕掛品	1,000kg	（ ● 100,000）円

加　工　費

月初仕掛品	250kg	50,000円	当月完成品	4,000kg	（ ● 800,000）円
当月投入	4,250kg	850,000円	月末仕掛品	500kg	（ ● 100,000）円

第４問（20点）

@4点×5＝20点

①	エ	②	オ	③	イ
④	ア	⑤	ウ		

第５問（20点）

●印@4点×5＝20点

原　価　計　算　表

（単位：円）

摘要＼指図書＃	＃301	＃302	＃303	合　計
月初仕掛品原価	252,050	―――	―――	252,050
直接材料費	―――	（ ● 27,100）	（ ● 20,850）	47,950
直接労務費	（ 180,000）	（ ● 450,000）	（ 270,000）	900,000
製造間接費	（ 240,000）	（ 600,000）	（ ● 360,000）	1,200,000
合　計	（ ● 672,050）	（ 1,077,100）	（ 650,850）	2,400,000
備　考	完　成	完　成	仕掛中	

２級　工業簿記（見本）　簿記能力検定試験・解説

第１問

【出題方針】

直接経費を除いた５つの製造原価のカテゴリー（直接材料費，直接労務費，間接材料費，間接労務費，間接経費）に該当する具体的な費用を選択する問題を出題します。

【解説】

１．減価償却費は物品や労働力の消費額ではありませんから経費です。よって，間接経費となります。

２．調理器具も製品を製造する際に消費される物品であるため材料となり，少額であれば，その購入額は材料費として処理されます。なお，調理器具はパンという製品を構成しませんから，間接材料費となります。

３．事務員の労働対価ですから労務費です。そして，事務員はパン作りに従事しているわけではありませんから，事務員の給料は間接労務費となります。なお，間接労務費の計算に際して，給与計算期間と原価計算期間が相違している場合，前月未払いや当月未払いの調整が必要となりますが，２級工業簿記では，この調整までは出題しません。

４．小麦粉という素材はパンという製品を構成するため，その消費額は直接材料費となります。なお，棚卸減耗が生じている場合，その分の金額を棚卸減耗費としますが，通常，これは間接経費として処理されます。棚卸減耗費に関しては，２級商業簿記にて出題されることから，２級工業簿記でも出題される可能性はあります。

５．調理時間中，工員はパン作りに従事しているため，その時間分の労働対価は直接労務費となります。なお，製品の製造に直接携わる工員であっても，会議など製品製造以外の作業をすることもあります。そして，そのような時間分の労働対価は間接労務費として処理します。

第２問

【出題方針】

個別原価計算を想定し，材料の購買から，受注，製品の製造，販売までの一連の流れに沿った仕訳問題を出題します。

【解説】

１．家具製造業にとっての木材ですから材料であり，それを購入したのですから，材料という資産の増加と考えます。また，材料副費を材料の取得原価に含めなければいけないため，運送代の 10,000 円を加えて，材料を 110,000 円とします。なお，材料副費には，運送代のような外部材料副費と検収費のような内部材料副費がありますが，２級工業簿記では，内部材料副費までは出題しません。

２．家具を製造するために木材を使用したということは，材料は加工され，もはや材料ではなくなります。そのため，まずは材料という資産の減少と考えます。一方，まだこの段階では加工したばかりですので製品として完成してはいません。そして，加工中の未完成品を仕掛品といいます。元の材料が資産なのですから，それを加工した仕掛品も資産です。そのため，新たに仕掛品という資産が増加したと考えます。要は，材料という何の加工もしていない資産が，仕掛品という一部だけ加工された資

産に転じたというわけです。なお，振替額の 40,000 円が直接材料費です。また，注文を受けただけですから，この段階では売上を計上しません。

3．工員へ支払った賃金のうち，顧客 A から注文を受けたタンスの製造に要する分をタンスの原価に加える仕訳になります。なお，振替額の 90,000 円が直接労務費です。

4．補助材料費のように金額がわずかな費用，または，事務員の給料や減価償却費のように製品を 1 個作るごとに発生していくわけではない費用は，製造間接費勘定にまとめられます。そして，集計された製造間接費は，製造している様々な種類の製品ごとに分割され，各製品の原価に加えられます。このような製造間接費を分割して各製品の原価に加える手続きを配賦といいます。この問題では，製造間接費のうち 30,000 円をタンスの原価に加えているわけです。なお，振替額の 30,000 円を製造間接費配賦額といいます。

5．加工中は仕掛品でしたが，完成すればもはや仕掛品ではありません。そのため，まずは仕掛品という資産の減少と考えます。一方，完成すれば，それは紛れもなく製品となります。元の仕掛品が資産なのですから，それを完成させた製品も資産でして，新たに製品という資産が増加したと考えます。なお，直接材料費 40,000 円と直接労務費 90,000 円に製造間接費配賦額 30,000 円を加えた 160,000 円がタンスの製品原価となります。

6．顧客 A にタンスを引き渡したため，この段階で売上を計上します。また，タンスを引き渡したということは，製品という資産が減少したことを意味しますし，同時に，売上原価という費用が発生したことも意味します。工業簿記では，製品を販売する際，販売した製品の原価は原価計算によって既に分かっているため，売上のみならず売上原価も同時に計上します。

第 3 問

【出題方針】

単純総合原価計算を想定し，直接材料費（材料費，原料費，素材費）と加工費の勘定ボックスを用いて完成品総合原価と月末仕掛品原価を計算する問題を出題します。サンプル問題では，原価配分は平均法となっていますが，先入先出法を出題する場合もあります。なお，この問題では，先入先出法であっても結果は同じになります。

【解説】

月初仕掛品原価と当月製造費用の合計額から平均単価を求めて，それを用いて当月完成品と月末仕掛品を評価します。

まず，直接材料費の平均単価は，

$$\frac{50{,}000\text{ 円}+450{,}000\text{ 円}}{500\text{kg}+4{,}500\text{kg}}=100\text{ 円/kg}$$

となります。よって，当月完成品と月末仕掛品の直接材料費は以下のように計算されます。

- 当月完成品の直接材料費：100 円/kg×4,000kg=400,000 円
- 月末仕掛品の直接材料費：100 円/kg×1,000kg=100,000 円

次に，加工費の平均単価は

$$\frac{50{,}000\text{ 円}+850{,}000\text{ 円}}{250\text{kg}+4{,}250\text{kg}}=200\text{ 円/kg}$$

となります。加工費の計算では，仕上がり程度を考慮した完成品換算量によって平均単価を求める点に注意してください。なお，分母の 4,250kg は当月の加工作業量であり，当月は 4,250kg 分の完成品を製造するのに相当する作業を行ったことを意味します。その求め方は，「当月完成品（4,000kg）＋月末仕掛品完成品換算量（500kg）－月初仕掛品完成品換算量（250kg）」です。そして，当月完成品と月末仕掛品の加工費は以下のように計算されます。

- 当月完成品の加工費：200 円/kg×4,000kg=800,000 円
- 月末仕掛品の加工費：200 円/kg×500kg=100,000 円

参考までに先入先出法の計算過程も示しておきます。先入先出法の場合，まず，月初仕掛品原価を当月完成品原価とします。その後，当月製造費用の一部を当月完成品原価に加え，残りを月末仕掛品原価とします。そのため，当月製造費用のみから単価を求めます。

まず，当月直接材料費の単価は，

$$\frac{450{,}000\text{ 円}}{4{,}500\text{kg}}=100\text{ 円/kg}$$

となります。そして，当月に投入した材料 4,500kg のうち，4,000kg－500kg＝3,500kg が完成品に，残りが月末仕掛品となったと考えるため，当月完成品と月末仕掛品の直接材料費は以下のように計算されます。

- 当月完成品の直接材料費：50,000 円 + (100 円/kg×3,500kg)=400,000 円
- 月末仕掛品の直接材料費：100 円/kg×1,000kg=100,000 円

次に，当月加工費の単価は

$$\frac{850{,}000\text{ 円}}{4{,}250\text{kg}}=200\text{ 円/kg}$$

となります。そして，当月の加工作業量 4,250kg のうち，4,000kg－250kg＝3,750kg の作業量が完成品に投入され，残りが月末仕掛品に投入されたと考えるため，当月完成品と月末仕掛品の加工費は以下のように計算されます。

- 当月完成品の加工費：50,000 円+(200 円/kg×3,750kg)=800,000 円
- 月末仕掛品の加工費：200 円/kg×500kg=100,000 円

先入先出法のシンプルな計算方法としては，当月製造費用の単価から月末仕掛品原価を求め，その後，「月初仕掛品原価＋当月製造費用－月末仕掛品原価」によって当月完成品原価を求める計算方法もあります。

第 4 問

【出題方針】

工業簿記では，製造活動（内部活動）に沿った勘定間の振替作業が欠かせません。そこで，2 級工業簿記では，勘定連絡図を読み解く問題を出題します。なお，出題される勘定はほぼサンプル問題と変わらず，金額と矢印の箇所が変わるだけとなります。また，サンプル問題と同様の選択式で，勘定に相手科目や金額を記入する問題は出題しません。

【解説】

① 材料勘定の貸方は材料費を意味します。そのうち，直接材料費は仕掛品勘定へ，間接材料費は製造間接費勘定へ振り替えられます。よって，間接材料費を意味します。なお，借方の 1,500,000 円が材料の購入額を意味します。

② 賃金勘定の貸方は労務費を意味します。そのうち，直接労務費は仕掛品勘定へ，間接労務費は製造間接費勘定へ振り替えられます。よって，直接労務費を意味します。なお，借方の 2,000,000 円が賃金の支払い額を意味します。また，借方の未払賃金 200,000 円を当月未払い，貸方の未払賃金 300,000 円を前月未払いといいます。ただし，2 級工業簿記では，未払賃金の意味が分からなくても解答できるようにしています。

③ 間接材料費や間接労務費，間接経費は製品別に直接的に集計することができないため，一旦，製造間接費勘定に集計し，その後，製品別に配賦します。製造間接費勘定から仕掛品勘定への振り替えは，この製造間接費の配賦を意味します。

④ 仕掛品とは加工中の未完成品のことであり，製品とは加工が済んだ完成品のことです。よって，仕掛品勘定から製品勘定への振り替えは，製品が完成したことを意味し，振替額の 5,500,000 円は完成した製品の原価となります。

⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えは，製品が販売されたことを意味し，振替額の 5,000,000 円は販売した製品の原価となります。

第 5 問

【出題方針】

個別原価計算を想定し，原価計算表を作成する問題を出題します。ポイントは，材料元帳から直接材料費の金額を読み解くこと，直接労務費を製造指図書番号別に集計すること，製造間接費を製造指図書番号別に配賦することの 3 点です。サンプル問題では材料元帳は先入先出法によって記帳されていますが，移動平均法の場合も出題されます。また，製造間接費の配賦基準は必ずしも直接作業時間に限られるわけではありません。直接材料費や直接労務費を基準とすることもあれば，機械稼働時間を基準とすることもあります。

【解説】

まず，直接材料費は材料元帳の払出欄からわかります。8 月 11 日に#302 を製造するために 27,100 円の材料が出庫されています。これが，#302 の直接材料費です。同様に，8 月 24 日に#303 を製造するために 20,850 円の材料が出庫されているため，これが#303 の直接材料費となります。

次に，直接労務費ですが，総額は 900,000 円であることは原価計算表に記載されています。そのため，これを直接作業時間に応じて製造指図書番号別に集計すればよいわけです。直接作業時間は合計して 300 時間です。したがって，賃率は，

900,000 円÷300 時間＝3,000 円/時間

となります。そして，この賃率に各製造指図書の直接作業時間を掛ければよく，#301 は 180,000 円，#302 は 450,000 円，#303 は 270,000 円となります。

そして，製造間接費ですが，こちらも総額は 1,200,000 円であることは原価計算表に記載されています。そのため，これを配賦基準の直接作業時間に応じて製造指図書別に配賦すればよいわけです。この場合，配賦率は，

1,200,000 円÷300 時間＝4,000 円/時間

となります。そして，この配賦率に各製造指図書の直接作業時間を掛ければよく，#301 は 240,000 円，#302 は 600,000 円，#303 は 360,000 円となります。

最後に，製造指図書別に計算したこれら製造原価を合計します。ここで，#301 は前月に着手し，前月中には完成しなかったのですが，前月末までに 252,050 円の製造原価が発生しています。これを月初仕掛品原価といい，#301 に関してはこの分も加えなければいけません。その結果，#301 は 672,050 円，#302 は 1,077,100 円，#303 は 650,850 円となります。なお，#301 と#302 は完成しましたので，#301 の 672,050 円や#302 の 1,077,100 円を製品原価といいます。一方，#303 は完成しておらず，このような未完成品を月末仕掛品といいます。そのため，#303 の 650,850 円を月末仕掛品原価といいます。